

中国実験動物人材養成センター 計画打合せ調査団報告書

平成7年9月

JICA LIBRARY



J 1144848(7)

国際協力事業団
社会開発協力部

社協一

J R

95-044

LIBRARY

1144848 [7]

中国実験動物人材養成センター
計画打合せ調査団報告書

平成7年9月

国際協力事業団
社会開発協力部

序 文

中国における実験動物の利用に関する研究レベルは国際基準に照らして未熟であり、医学、薬学、化学工業、環境等の各分野の発展を妨げる要因になっている。

このため、中国国家科学技術委員会は1988年に「実験動物管理条例」を制定した。条令では、実験動物関連の研究開発を国家重点研究課題と位置づけ、実験動物の育種、品質管理、技術者育成、情報収集を重点項目に定めている。そして、これら研究開発が成功するためには人材育成が急務と考え、北京市にある中国医学科学院に実験動物人材養成センターの設置を計画して、我が国に技術協力を要請してきた。

これを受けて国際協力事業団は、事前調査団や長期調査員を派遣して状況を把握するとともに、支援のための国内委員会を組織して準備を整えた後、1992年6月に討議議事録の署名を取り交わして、5年間にわたるプロジェクト方式技術協力が開始された。

今般、プロジェクト開始後約3年を経過したので、その進捗状況を確認するとともに今後の実施計画を中国側と協議するため、当事業団は慶応義塾大学教授 前島一淑氏を団長とする計画打合せ調査団を、1995年(平成7年)7月24日から8月3日まで、中国に派遣した。

本報告書は、同調査団による調査及び協議結果を取りまとめたものである。

ここに、調査の任にあられた団員の方々、及びご協力いただいた外務省、文部省、在中國日本国大使館、その他関係機関の方々に心からの感謝の意を表するとともに、今後のご支援をお願いする次第である。

平成7年9月

国際協力事業団
社会開発協力部
部長 後藤 洋



合同委員会①



合同委員会②



左から平山団員、浦野団員、木内団員、
前島団長、吉田団員、永井団員



ミニッツ署名

目 次

序文

写真

1. 計画打合せ調査団派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程表	2
1-4 主要面談者	2
2. 要約	5
3. プロジェクトの実施体制	9
3-1 組織	9
3-2 カウンターパート配置状況	10
3-3 予算措置	10
4. プロジェクト活動の実績	11
4-1 日本側協力実績	11
4-2 教育訓練課程の概要	11
5. 日本側協力計画	15
5-1 専門家派遣	15
5-2 研修員受入れ	15
5-3 供与機材	15
6. 合同委員会の協議結果	17

付属資料

1. ミニッツ (和文・中文).....	23
2. カウンターパートの配置状況	39
3. 専門家派遣実績	41

4. カウンターパート研修実績	43
5. 供与機材管理台帳	45
6. 1995年度以降の教育訓練課程の計画	61
7. 訪日研修員の受入れ	63

1. 計画打合せ調査団派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

実験動物の利用は生命科学研究を推進する上で必要不可欠であり、医学、薬学、化学工業、環境等の部門の発展にぜひとも必要なものである。しかしながら、中国の当該分野の研究レベルは国際基準に照らして未熟であり、系統的な研究体制も整っていないため、これらの各分野における研究及び応用に重大なマイナス影響を及ぼしている。このため、中国国家科学技術委員会は1988年に「実験動物管理条例」を制定して、実験動物の育種、品質管理、技術者育成、情報収集を四つの重点項目に定め、実験動物関連の研究開発を国家重点研究課題と位置づけて1989年、我が国にプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

国際協力事業団では、この要請を受けて1991年3月に事前調査団、1992年3月に長期調査員を派遣し、本プロジェクトで実施する人材養成課程の内容について協議を行った。その後1992年6月に実施協議調査団を派遣し、討議議事録(Record of Discussions: R/D)の署名を取り交わして、1992年7月1日から5年間の協力期間をもって本プロジェクトが開始された。

本プロジェクトは、中国国家科学技術委員会が中国の実験動物の維持、飼育管理、生産並びにその利用に関する技術水準の向上を図るため、北京市の中国医学科学院に設置した中国実験動物人材養成センターにおいて、中国側が実施する七つの教育訓練課程を通じ、実験動物に関連する日本の技術を、同センターの教育訓練担当教官である中国側カウンターパートに技術移転し、もって中国における実験動物技術を発展させ、更には中国の医学並びに生物学の発展に寄与することを目的とするものである。

本プロジェクト開始後3年を経過したので、技術移転の達成状況を確認するとともに、現在実施されている教育訓練課程の実施にかかる問題点を整理・検討し、残された2年間の協力期間にどのような協力計画を策定したらよいか探ることを目的として、計画打合せ調査団が派遣された。

1-2 調査団の構成

団長	総 括	前島 一淑	慶應義塾大学医学部教授
団員	研究・教育	吉田 秀保	文部省学術国際局学術情報課係長
団員	無菌動物学	木内 吉寛	横浜市立大学医学部助教授
団員	実験動物管理学	浦野 徹	熊本大学医学部助教授
団員	協力企画	永井 康義	国際協力事業団社会開発協力部社会開発協力第一課
団員	通 訳	平山 梅芳	日本国際協力センター研修監理員

1-3 調査日程表

日順	月 日	行 程	行 動 内 容
1	7月24日 (月)	東京→北京	JICA事務所訪問、日程等の打合せ
2	25日 (火)		日本国大使館表敬、国家科学技術委員会表敬 衛生部表敬、中国医学科学院表敬
3	26日 (水)		専門家との打合せ、関連施設視察
4	27日 (木)		中国側との協議
5	28日 (金)		合同委員会
6	29日 (土)		合同委員会、ミニッツ署名
7	30日 (日)	北京→瀋陽	
8	31日 (月)		中国医科大学視察
9	8月 1日 (火)	瀋陽→北京	
10	2日 (水)		JICA事務所報告
11	3日 (木)	北京→東京	

1-4 主要面談者

(1) 中国国家科学技術委員会

条件財務司	副司長	鄭 國安
	処長	王 順昌
	副処	李 忠遠

(2) 中国衛生部

国際合作司	司長	李 世緯
	双辺關係処処長	慕 英英
科学技術司	計画処処長	劉 謙

(3) 中国医学科学院

院長		巴 德年
副院長		盧 聖棟
実験動物研究所	所長	蔡 有餘
	副所長	劉 德惠
	副所長	張 克文

(4) 中国医科大学

学長		何 三光
実験動物学部	主任	王 太一
実験動物学部	副主任	王 禄増

(5) 中国実験動物人材養成センタープロジェクト

長期専門家 (チーフアドバイザー)		上田 雄幹
(調整員)		高橋公一郎
(実験動物)		久原 孝俊

(6) 日本国大使館

二等書記官		北川 博一
-------	--	-------

(7) JICA事務所

所長		熊岸 健治
所員		松本 丞史

2. 要約

中国実験動物人材養成センタープロジェクトにおける実験動物に関する技術移転の進捗状況を把握し、技術移転を更に効果的に推進することを主な目的として、本調査団は7月24日～8月3日の日程で訪中し、所定の調査を実施して、7月28～29日に開催された第3回日中合同委員会で今後の対応等を協議した。また、当該センターが実験動物の教育訓練機関として自立するための問題点等についても調査した。その結果は以下のとおりである。

- (1) 実験動物技術移転の中心である7種類の研修課程については、1995年7月現在、課程1（管理技術）を4回、課程2（微生物・寄生虫学）を3回、課程3（遺伝育種）を1回実施済みで、更に本年8～9月と10月及び明年3月に、第1回課程4（病理診断）、第2回課程3及び第1回課程6（無菌動物）の研修が予定されている。

この研修実施の実績は、当初の計画と比べると多少の遅延はある（主に研修用供与機材の到着の遅れと中国側のさまざまな行事に基づく）ものの、日本側長期専門家と中国側担当者の熱意と努力によって、ほぼ順調に進行している。

また、今回の訪中目的の一つである第3回日中合同委員会の事前折衝において、中国側から同国の多彩な行事予定を理由に研修課程の回数削減の提案があったが、本会議において巴院長から当初の計画どおりの研修回数の実施に努力する旨の発言（事前折衝での提案の撤回）があった。中国側の意欲の現れと評価すべきである。

- (2) 上記研修における日本の長期専門家並びに短期専門家の支援と助言については、特に改善すべき問題はないと判断できた。むしろ、当初計画にはなかった短期専門家による特別講義、あるいは地方研修会における長期専門家の特別講義は、日本側の積極姿勢と中国側から評価されていた。

ただし、本プロジェクトの成果をより高めるためには、中国実験動物人材養成センター内に高水準の「動物実験施設」の設置を急ぐべきである。既に、中国側はカウンターパート（C/P）の汪歌氏（金沢大学において研修）を責任者として配置していたが、長期専門家の積極的な指導が望ましいと判断された。

この指導の内容は、従来の7種類の研修課程の実施に対する助言とは異質のもので、新たに加わった業務である。したがって、動物実験施設の設置作業が本格化した場合には、その指導のために長期専門家の1名増員が絶対に必要であると判断された（この件に関して中国側からも要望が出された）。

また、これまで短期専門家は、それぞれが担当する研修の実施時期に合わせて（約1

週間前に) 訪中していた。しかし、研修実施に関して更に緻密な助言を行うためには、時間的余裕をもって研修開始1か月以上前に短期専門家を派遣することが望ましい。

- (3) 研修のための供与機材について、初年度及び第2年度には研修実施と機材到着の時間的ずれもあったが、現在では研修に必要かつ十分な機材が原則として研修開始前に到着しており、順調に供与されていると判断された。また、供与済みの機材の保守管理体制の整備も進行中であった。

これまで、研修の程度を越えた(高級ないし高価な)機材の供与要求がしばしば中国側から出され、日中定期協議等における紛糾の種となってきた。その状況は、改善されつつあっても依然として続いている。日本側としては、本プロジェクトの意義を中国側に更に理解させ、研修に直接必要な機材のみの供与に努める必要がある。

ただし、中国側から繰返し要求されてきた視聴覚教育設備については、(欧米諸国や日本では日常的に使用されているが)中国では入手困難な機材が少なくない現状に鑑み、それらの機材を供与すべきだと判断された。

なお、今回日本で調達される供与機材の(日本)価格が、現地(中国)価格とかなりの開きがあるので、明年度の供与機材は原則として中国で調達する方式に変更したいと中国側が強く主張した。現地調達方式それ自体は悪いことではないので、中国側の文書作成能力を測る機会として、中国側に作業を任せてもよいであろう。

- (4) 日本での研修を終了して帰国した中国人C/Pは既に11名を数え、この研修を引受けた日本人関係者の彼らに対する評価はおおむね高い。また、帰国した中国人C/Pに対する中国側の評価も一般に低くない。

今回の訪中の機会を利用して、帰国した日本研修生から6名のC/Pが選ばれ、彼らによる日本研修実績あるいは帰国後の研究に関する報告会が開催された。これからみても、中国人C/Pの日本研修についてかなり高い評価を与えてよいと思われた。

また、今回の訪中の中に中国人C/Pと昼食を共にする機会を持った。短い時間での会話ではあったが、大部分の若手C/Pが極めて真摯で高い意欲を持っていると判断され、一部で囁かれているように彼らが無気力に陥っているとは考えられなかった。

なお、これまで日本研修生が中国医学科学院職員だけから選ばれてきたことに対する批判が強く、日本側は中国全土から人選を行うように繰返し要求してきた。今年度以降の研修生の人選に日本側の主張が盛込まれるようになり、中国側の対応に一応の評価を下してよいと思われた。

しかし、それでも北京市ないしその周辺に勤務している者に限られており、中国側の

一層の努力を求めることが望ましい。

- (5) 全般的に本プロジェクトは順調に進行しており、当初の目的をほぼ達成できると思われるが、本プロジェクトの終了後に中国実験動物人材養成センターが活性の高い、自立的な、中国実験動物専門家の生涯教育訓練機関として、機能するかどうかの点に一抹の不安はある。

中国側にその意思があり、法規的にも行政的にも組織整備に努力していることは事実であるが、中国全土の実験動物専門家の中には本プロジェクトの意義を誤解している者が依然としており、実験動物技術や教育の意味を理解していない者もいるので、長期専門家にこのような誤解を解く努力と啓蒙活動を期待したい。

ところで、欧米諸国でも日本でも、医学、生物学のバランスの取れた発展には、良質の実験動物を供給しようとする実験動物関係者（実験動物専門家）の意欲と、技術水準の向上、および高度の動物実験を実施したいとする動物実験関係者（医学、生物学研究者）の意欲と学問水準の向上が必須である。

本プロジェクトは、実験動物専門家の育成を主目的とした中国側の要請により発足したもので、その視点からは順調と判断できることは上述のとおりであるが、中国における良質の動物実験の実施に関する認識はまだ不十分である。例えていえば、木を育てる植林方法と育った木材の利用手段の両技術の移転が調和しないと、林業の支援事業は完結しない。

本プロジェクトをより効果的なものとするためには、本プロジェクト「実験動物人材養成」に続いて「動物実験人材養成」の対中国支援（第2フェーズ）を考慮することが望ましい。動物実験の技術移転に関する第2フェーズへの移行に関して、現在の中国の実験動物体制は機が熟しているとみてよい。

- (6) 本プロジェクトにかかる日中合同委員会の後、瀋陽を訪問し、中国医科大学（実験動物中心並びに日中医学教育中心）及び瀋陽農業安全評価中心を視察した。

今回の訪中の主目的ではないので詳細な記述は省略したが、実験動物施設としての中国医科大学並びに瀋陽農業安全評価中心の施設は、残念ながら、中国実験動物人材養成センターのそれよりもはるかに整備されており、研究活性も高いことを認めざるをえなかった。

実験動物の人材養成機関としての中国実験動物人材養成センターは、上記2施設よりも格段に整備されており教育訓練活動の活性は高いが、高度な実験動物教育の背景に整備された動物実験施設と高い研究水準が不可欠という常識からすれば、本プロジェクトの中に動物実験施設を確立すべきことは当然である。

3. プロジェクトの実施体制

3-1 組織

(1) 中国実験動物人材養成センターは、中国医学科学院に直属する機関であり、中国医学科学院実験動物研究所、中国協和医科大学実験動物学部と並立する組織形態になっている。

なお、中国医学科学院と中国協和医科大学は、重複機関であり、実質的には同一組織となっている。

(2) センターの運営については、国家科学技術委員会が予算等の技術管理を行い、中国衛生部は教育・研究等の行政管理を行うことになっている。中国側からは、教育訓練と研究は互いに密接に関連しており、この形式が最も最善である旨の説明を受けた。

なお、中国政府においては、国家科学技術委員会は衛生部よりも上位に位置する行政機関となっている。

(3) 中国側に対し、プロジェクト終了後、センターの組織と事業をどのような形で継続していくのか確認したところ、以下の回答を得た。

- 1) 本プロジェクト終了後は、中国医学科学院実験動物研究所とセンターを一体に進めていく。
- 2) 教育訓練プログラムを頻繁に開くことはできないが、20～30名の研修生を対象に、年1回または2回のペースで北京市または地方で行う。
- 3) 大部分の研究者は、中国医学科学院実験動物研究所とセンターを兼務することになるが、必要に応じ、地方の大学のスタッフを呼び講習を行うことになる。

(4) また、衛生部からは、1996年に始まる第9次5か年計画において、本センターは重要な機関として位置づけられており、「衛生部実験動物重点研究室」を中国医学科学院実験動物研究所内に設立する予定であるとの説明を受けた。

(5) 中国医学科学院実験動物研究所内で、安全動物飼育実験施設（1室）及び動物飼育室（2室）等の施設の整備が行われており、現在、稼働可能な段階に入ってきている。

このため、一部のカウンターパート（C/P）に対し日常的技術指導を行いたい旨の提案を行ったところ、中国側はこれを了承した。

3-2 カウンターパート配置状況

(1) 定員38名の配置を一応達成したが、なかには日本側専門家による技術移転や教育訓練課程に参加しない等、C/Pとしての活動をしていない者がいるので、実質的かつ安定した配置を図るため、現状に即して名目的なC/Pを整理することを要請した。中国側は同意し、定員不足が生じた場合は空席とし、適任者がいれば補充する旨の回答を受けた(C/Pの配置状況は付属資料2参照)。

(2) また、C/Pの技術交流、研究交流、情報交換を図るため、日本側からC/P定期交流会を開催することを提案したところ、中国側は原則的には同意するが、旅費や滞在費等の問題があり、当面は、内部のC/P同士で行うなど、なるべく経費が負担にならないように行いたい旨の説明があった。

なお、具体的方法については、日中で検討して決定することとなった。

3-3 予算措置

中国側に対し、R/D附属文書VI-2のとおり、中国側のプロジェクト実施にかかる所要経費の負担を引き続き求めた。中国側からは、R/Dの内容は十分に理解しており、引き続き最大限の努力を行うが、政府の厳しい財政状況を日本側も理解してほしい旨の回答があった。

4. プロジェクト活動の実績

4-1 日本側協力実績

(1) 専門家派遣

長期専門家については暫定実施計画に沿ってチーフアドバイザー2名（1名は既に交代・帰国）、調整員、実験動物専門家各1名、計4名を派遣した。

短期専門家は、教育訓練課程の実施にあわせて延べ31名を派遣している。

上記の詳細実績は付属資料3に示した。

(2) 研修員受入れ

日本におけるカウンターパート（C/P）研修は、これまでに計13名に対して行われた。その実施実施状況は付属資料4に示す。

(3) 供与機材

供与機材については付属資料5. 供与機材管理台帳のとおりであり、教育訓練課程が始まっていないものを除き、有効に活用されていた。また、機材の管理者も定められ、保守管理体制はほぼできあがっていた。

4-2 教育訓練課程の概要

本プロジェクトは1997年6月で終了するが、中国側から日本側に対し、協力期間内にR/D暫定実施計画の教育訓練課程をすべて実施することは困難であることから協力期間を延長してほしい。そして延長を前提として今後の教育訓練課程の日程を検討したい旨の希望が出された。日本側はこれに対して、①本件については既に前回の1994年12月6日に開催された第2回合同委員会で討議されたように、協力期間内に終了するように努力すること、②残された協力期間内に最善の努力をするのが重要であること、③協力期間の延長については今回ではなく、最終年度に計画されている合同委員会で討議すべき事項であることとの考えを示し、その結果、中国側も延長を前提とはせず、期間内に最善の努力をすることで合意した。それに基づき、今回の合同委員会では、残りの協力期間内の教育訓練課程の日程を中心に検討した。

(1) 1994年度までの実施状況

1) 教育訓練課程

七つの教育訓練課程のうち、最後の「遺伝子導入動物技術」を除いた六つについてのカリキュラム及びテキストの作成は終了している。残された「遺伝子導入動物技術」に

については、1995年7月8日～7月14日に派遣された日本側の短期専門家2名（笠井憲雪氏、下田耕治氏）により、カリキュラム作成の打合せが行われ、現在翻訳作業中である。なお、「病理診断技術」は近く実施予定（1995年8月28日～9月22日）で、現在、中国側により教育訓練課程実施時に使用する各種病理標本を作成中である。1994年度までに行われた教育訓練課程は「実験動物技術及び管理」が4回、「微生物学的及び寄生虫学的技術」が3回、「遺伝学統御及び育種技術」が2回、「病理診断技術」が1回で、それぞれの実施日は以下のとおりである。

① 実験動物技術及び管理

- ・1993年 6月28日～ 8月 7日
- ・1993年10月25日～11月20日
- ・1994年 5月 9日～ 6月 4日
- ・1994年 8月22日～ 9月17日

② 微生物学的及び寄生虫学的技術

- ・1994年 2月28日～ 3月26日
- ・1994年 7月11日～ 8月 6日
- ・1995年 6月 8日～ 6月 2日

③ 遺伝学的統御及び育種技術

- ・1995年 3月 6日～ 3月25日
- ・1995年10月 9日～10月27日

④ 病理診断技術

- ・1995年 8月28日～ 9月22日

2) 地方研修会

第2回合同委員会で合意された地方研修会の初めての試みが1995年6月に長沙で開催され、長期専門家（上田雄幹、久原孝俊の両氏）がこれに参加して、湖南省の実験動物関係者と有益な学術交流を行った。

(2) 1995年度以後の実施予定

1) 教育訓練課程

教育訓練課程の実施可能な回数は、これまでは1年4回が限度とされてきた。今回の合同委員会で、1995年度以後の実施予定について中国側に最大限の努力を要請した結果、付属資料6のように、1995年度に4回、1996年度に5回、1997年度に1回開催することとなった。実施回数については、当初中国側は特定の教育訓練課程を多数開催することを要請したが、日本側は七つの課程をすべて2回以上実施することを提案し、検討の

結果、日本側提案で合意した。

また、これまでは日本側の短期専門家はそれぞれの担当する教育訓練課程の実施時期に合わせて（約1週間前）訪中していた。しかし、研修内容をより高度化するために、また、研修のための機器の調整（特に栄養技術と遺伝子導入動物技術）のために、日本側から、教育訓練課程開始1か月程度前に時間的余裕を持って短期専門家を派遣する等の処置が必要であることが提案され、合意した。

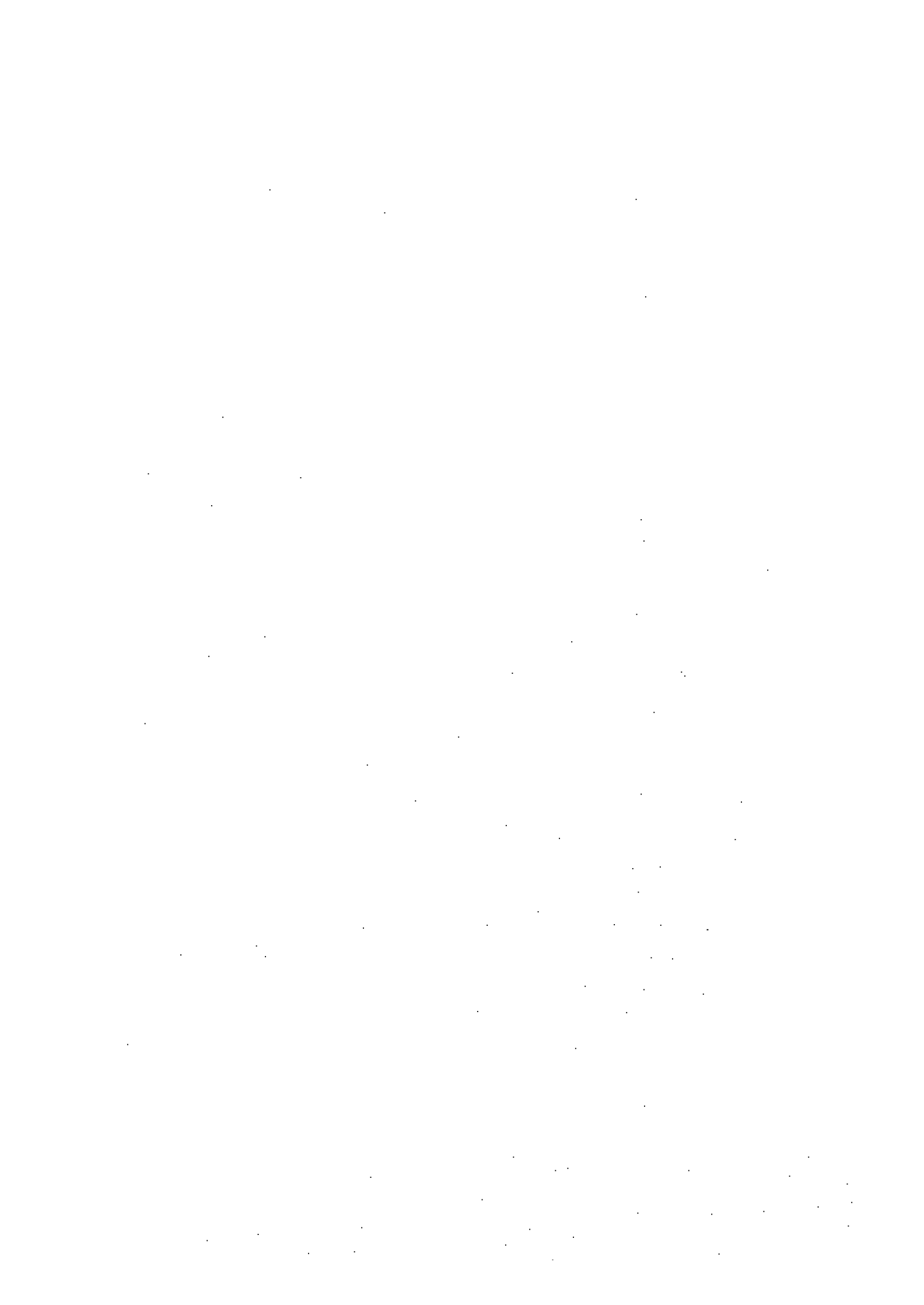
2) 地方研修会

七つの教育訓練課程とは別に行われた地方研修会（1週間）も、実験動物に関する知識と技術の全国的普及という点から有効な方法である。日本側から、今後も日本側の長期・短期専門家の負担が過重にならないように最大限の努力をして、日程、カリキュラムを組むように提案し、同意された。ただし、中国国内では実験動物管理委員会が地方研修会開催についての権限をもっているため、今後の開催については同委員会と相談をしながら具体化することとした。

(3) その他

1) 教育訓練課程において実際に研修を実施する場所として、研修所内に常時実験動物を清潔かつ安全に飼育できる施設及び管理体制を築くことは必須条件であることがこれまでに合意されており、これに基づき、安全動物飼育実験室（1室）、動物飼育室（2室）等の施設が既に設置された。また、日本で研修を終えて帰国したC/Pの一部が既にこれらの施設に配属され、管理体制も徐々に整備されている状況にある。今後は、日中双方の協力により、早急にこれらの施設の設備、人的配慮を含めた管理体制を充実し、管理規則・使用規定を定め、長期専門家からC/Pへの技術移転を行いながら、今後実施される教育訓練課程においてこれらの施設を使用して実際に研修を行えるようにすることで合意した。

2) 現在、受講生の募集は医学関係者に偏っている傾向があるので、今後は農学、薬学、化工、環境等、医学関係以外の実験動物関係機関に対しても受講生募集を行い、教育していくことが確認された。



5. 日本側協力計画

5-1 専門家派遣

短期専門家については、今後も教育訓練課程の実施に合わせて派遣し、カウンターパート（C/P）への技術指導を行う。また、一部の課程においては教育訓練課程開講以前に短期専門家を派遣し、あらかじめC/Pに技術移転を行っておき、改めて開講時に短期専門家を派遣するという方法も検討している。

5-2 研修員受入れ

1995年度以降については、中国側の要望（付属資料7. 訪日研修員の受入れ）を踏まえて実施する。

5-3 供与機材

1996年度供与機材については、今後、中国側が優先順位を付した要望機材リストを提出し、日本側がそのリストに基づいて事前検討のうえ、中国側の正式要請を待って予算等勘案して措置することを確認した。

6. 合同委員会の協議結果

経緯と概要を以下に記す。

7月28日及び29日開催の第3回日中合同委員会は、中国実験動物人材養成センター第1会議室において、下記の委員及びオブザーバーの参加の下で開催された。

- ① 中国側委員：巴 徳年（中国医学科学院院長、プロジェクト包括責任者、合同委員会委員長）、盧 聖棟（中国医学科学院副院長、センター長）、劉 謙（衛生部科学技術司計画処処長）、宋 国興（中国医学科学院科研処処長）、蔡 有余（中国医学科学院実験動物研究所長、センター常務副主任）、張 克文（同実験動物研究所副所長、センター副主任）、劉 徳恵（同実験動物研究所副所長、センター副主任）、方 離（通訳）、郭 苗雲（衛生部科学教育司計画処官員、プロジェクトカウンターパート（C/P）、オブザーバー）。
- ② 日本側委員：前島一淑（慶応義塾大学医学部教授、日本国内委員長、調査団長）、吉田秀保（文部省学術国際局学術情報課係長、調査団員）、上田雄幹（長期専門家、チーフアドバイザー）、木内吉寛（横浜市立大学医学部助教授、国内委員、調査団員）、浦野徹（熊本大学医学部助教授、国内委員、調査団員）、永井康義（JICA社会開発協力第一課員、調査団員）、松本丞史（JICA中国事務所員）、高橋公一郎（長期専門家、調整員）、久原孝俊（長期専門家、実験動物専門家）、平山梅芳（日本国際協力センター研修監理員、調査団員）、北川博一（日本国大使館書記官、オブザーバー）。

第1日目の会議は、開会の辞（巴委員長）、中国側代表挨拶（巴委員長）、日本側代表挨拶（前島団長）、中国側祝辞（衛生局長代理－劉処長）、日本側祝辞（北川書記官）、中国側事業報告（蔡所長）、日本側事業報告（上田チーフアドバイザー）、1996年度事業計画案の中国側提議（蔡所長）、1996年度事業計画案の日本側提議（上田チーフアドバイザー）、日中両国の提議に関する検討、プロジェクト運営にかかる諸問題、課題に関する質疑応答、ミニッツに関する協議、閉会の辞（巴委員長）の順で進行した。

第2日目の会議は、日本研修を終えて既に帰国している中国人C/P（代表6名）による事業報告、ミニッツ作成に関する事務折衝、ミニッツ署名等が行われた。

主要な討議事項は以下のとおりである。

- (1) 本プロジェクトの実施状況はおおむね計画どおりに進捗しているとみられたが、日本側から中国側に対して、中国実験動物人材養成センターと中国医学科学院実験動物研究所の組織上の区別を質した。

これに対して中国側から、中国実験動物人材養成センターは国家科学技術委員会の技術管理、衛生部の行政管理を受ける中国医学科学院直属の恒久的な組織で、中国医学科学院実験動物研究所と並立する組織である旨の説明があり、中国における当該センターの行政的位置が明確に示された。

更に、中国実験動物人材養成センターは1996年から始まる第9次5か年計画における重要機関とされており、衛生部実験動物重点研究室を研究所に設立する予定であると追加説明された。

(2) 供与機材の保守管理体制並びにC/Pの位置状況について中国側から説明があり若干の質疑応答があったが、大筋において問題はないと判断された。

(3) 1994年度の教育訓練(研修)は1993年度の協議覚書のとおり4回実施されたと報告があった。また、1995年度の研修は前年度の計画どおり4回、予備折衝の段階で多少の議論はあったが、1996年度のそれは日本提案のとおり5回を実施することで意見が一致した。

(4) 長期専門家及び短期専門家の派遣は計画どおりに実施されているが、今後は、教育訓練の実施に先立って短期専門家を派遣することにした。

(5) 1994年度及び1995年度の日本研修員の受け入れについては所定どおりであり、1996年度のそれについて候補者リストが中国側から提示された。

(6) 1994年度供与機材は順調に到着して有効に活用されており、1995年度のそれは教育訓練の実施に間に合うように手配を急いでいる旨の発言が日本側からあった。

1996年度供与機材に関して、中国側が希望優先順位を付した機材リスト(直接研修に用いる機材の他にかなりの額の研究用機器並びに視聴覚教育設備を含む)を提出し、日本側の検討を経て中国側の正式要請を受けることにした。

なお、本問題の討議の中で、日本における入札価格と国際価格(中国現地購入価格のことと思われる)の間にかかなりの開きがあるので、1996年度供与機材について現地入札とする希望が強く出された。

中国側が入札に先立つ書類作成に全面的に協力する意思と能力があるならば、供与機材の調整、修理、備品補給等の便を勘案して、現地購入は好ましいことである。

現地購入に関する交渉経緯をミニッツに載せることを中国側は強く主張し、ミニッツ署名直前まで交渉が続いたが、最終的に巴委員長がその主張を撤回した。

(7) また、日中両国の予算によるセンター施設の新設、改装、整備等の工事が互いに提案され、討議された。

(8) この他、動物実験施設の整備、当該プロジェクトの期間延長、長期専門家の定員増員その他が提議、討議されたが、ミニッツとして残すに至らなかった。

付 属 資 料

1. ミニッツ (和文・中文)
2. カウンターパートの配置状況
3. 専門家派遣実績
4. カウンターパート研修実績
5. 供与機材管理台帳
6. 1995年度以降の教育訓練課程の計画
7. 訪日研修員の受入れ

付属資料1. ミニッツ (和文)

中国実験動物人材養成センタープロジェクトのための
技術協力に関する協議覚書

国際協力事業団が組織し、前島一淑を団長とする日本側計画打合せ調査団は、中国実験動物人材養成センタープロジェクト (以下「プロジェクト」という。) に関し、技術協力の進捗状況の確認と今後の技術協力実施計画の策定を行うため、1995年7月24日から8月3日までの日程をもって中華人民共和国を訪問した。

中華人民共和国滞在中、日本側計画打合せ調査団は、中華人民共和国の本プロジェクト包括責任者、中国医学科学院院長巴德年を団長とする中国側協議団とプロジェクトの有効な実施のために意見を交換し、一連の協議を行った。

協議の結果、双方は付属文書に記載する諸事項について確認した。

1995年7月29日 北京

日 本 国
国際協力事業団
計画打合せ調査団団長
前 島 一 淑

前島一淑

中華人民共和国
中国医学科学院院長
技術協力協議団団長
巴 德 年

巴德年

付 属 文 書

1. プロジェクトの実施体制

(1) プロジェクトの実施状況

中国側から、プロジェクトの実施状況について、概ね当初計画どおり進捗しているとの説明があった。

(2) 中国実験動物人材養成センターの組織

日本側は、中国実験動物人材養成センター（以下「センター」という。）の組織について、センターで教育訓練課程を実施する体制を確立するため、中国医学科学院実験動物研究所（以下「研究所」という。）との明確な区別を図るよう強く要望した。

これに対し中国側から、センターは長期的に持続する組織であり、国家科学技術委員会はセンターの技術管理を行い、衛生部はセンターの行政管理を行う。また、センターは衛生部中国医学科学院に直属する機関であり、中国医学科学院実験動物研究所、中国協和医科大学実験動物学部と並立する組織形態となっている。教育訓練と研究は互いに密接に関連しており、この形が最もよいと考える。プロジェクト終了後は、国家科学技術委員会と衛生部の指示により、教育訓練課程を開催していきたいとの回答があった。

なお、衛生部から1996年から始まる第9次5カ年計画において、センターは重要な機関とされており、「衛生部実験動物重点研究室」を研究所に設立する予定であるとの説明があった。

(3) 供与機材の保守管理体制

中国側から、供与機材を有効に使用するため、既に機材管理台帳の作成は完了しているとともに、各機材ごとの配置場所および管理者が定められているとの報告があった。

(4) カウンターパートの配置状況

中国側から、「実験動物技術および管理」、「微生物学および寄

生虫学的技術」、「遺伝学的統御および育種技術」、「病理診断技術」、「栄養技術」、「無菌動物技術」、「遺伝子導入動物技術」の各教育訓練課程のカウンターパートの配置状況について、別紙1の提出があった。

これに対し日本側は、中国側が名目だけのカウンターパートを整理したことに同意し、適任者がいたら補充するよう要望したところ、中国側は同意し、新たに9名の候補者を推薦した。

2. プロジェクトの進捗状況および実施計画

(1) 教育訓練課程の実施

1994年度については、「実験動物技術および管理（第3回、第4回）」、「微生物学および寄生虫学技術（第2回）」、「遺伝学的統御および育種技術（第1回）」の教育訓練課程が実施された。これについては、1993年11月の巡回指導調査団の協議覚書で確認した計画どおりであり、所要の成果があったことを確認した。

1995年度については、既に「微生物学および寄生虫学技術（第3回）」の教育訓練課程を実施しており、今後、「遺伝学的統御および育種技術（第2回）」、「病理診断技術（第1回）」、「無菌動物技術（第1回）」の教育訓練課程を実施する予定である。

1996年度については、日本側が、教育訓練課程を5回実施したらどうかと提案したところ、中国側も5回実施することに同意した。

なお、1995年度以降予定している教育訓練課程は、別紙2のとおりである。

(2) 長期専門家の派遣

チーフアドバイザー、調整員、実験動物専門家を派遣しており、暫定実施計画どおりであることを確認した。

(3) 短期専門家の派遣

1994年度については、教育訓練課程の実施に合わせて短期専門家を派遣し、カウンターパートへの技術指導を行うとともに、「栄養

技術」、「無菌動物技術」に係る短期専門家を派遣して、それぞれの教育訓練課程のカリキュラム、テキストの作成指導を行った。

1995年度については、既に「微生物学のおよび寄生虫学的技術」の教育訓練課程の実施に合わせて短期専門家を派遣するとともに、「遺伝子導入動物技術」の教育訓練課程のカリキュラム、テキストの作成指導のための短期専門家を派遣した。

また、今後、教育訓練課程の実施および実施に先だって短期専門家を派遣することを確認した。

(4) 研修員の受入れ

1994年度については、「実験動物技術および管理（2名）」、「遺伝学的統御および育種技術（1名）」、「病理診断技術（1名）」、「栄養技術（1名）」、「無菌動物技術（1名）」、「遺伝子導入動物技術（1名）」の分野のカウンターパートについて訪日研修を実施した。

1995年度については、「病理診断技術（1名）」、「栄養技術（2名）」、「遺伝子導入動物技術（1名）」の分野のカウンターパートについて、訪日研修を実施する予定である。

1996年度については、中国側から別紙3のと通りの訪日研修候補者リストの提出があった。

(5) 供与機材

1994年度の供与機材については、「遺伝学的統御および育種技術」の教育訓練課程の実施に際し有効に活用されているとともに、今後実施される、「病理診断技術」の教育訓練課程でも使用される予定である。

1995年度の供与機材については、「無菌動物技術」、「栄養技術」、「遺伝子導入動物技術」の教育訓練課程の実施前までにプロジェクトに到着するよう、手配しているところである。

また、1996年度については、今後、中国側が優先順位を付した

要望機材リストを提出し、日本側が本リストに基づき事前検討の上、中国側の正式要請を待って予算等勸案の上可能な範囲で措置することを確認した。

(6) 建物、施設の整備

中国側の予算により、機材中央管理室の新設工事、会議室の改装工事等が実施され、現在、本年9月頃を目途にセンター3階動物飼育設備（系統保存）の整備を終了させる予定である。また、繁殖場の固形飼料製造装置収納建物の改造も行う予定である。

日本側の予算により、センター2階の動物飼育実験室の整備を完了し、同地下1階の安全動物飼育室関連施設の整備を実施中である。

[注] 本文で使用する年度は、日本側財政年度（4月～3月）である。

カウンターパートの配置状況

分野	必要カウンター パート数	現状カウンター パート数 (94年11月提出)	調整後のカウンター パート数 ※ (95年7月提出)	カウンターパート候 補者の推薦数 (95年7月提出)
実験動物技術および管理	8	8	6	2
微生物学および寄生虫学的技術	6	6	5	1
遺伝学的統御および育種	4	4	3	1
病理診断技術	6	6	5	1
栄養技術	4	4	4	
無菌動物技術	4	4	3	1
遺伝子導入動物技術	6	6	4	3
合 計	38	38	30	9

※名目的カウンターパートを整理した残数

別紙 2

1995年度以降の教育訓練課程の計画

教育訓練課程	1995年度	1996年度	1997年度
実験動物技術および管理			
微生物学のおよび寄生虫学的技術	1		
遺伝学的統御および育種技術	1		
病理診断技術	1	1	
栄養技術		2	
無菌動物技術	1	1	
遺伝子導入動物技術		1	1

別紙 3

訪 日 研 修 員 の 受 入 れ

分 野	1995年度	1996年度
実験動物技術および管理		1
微生物学のおよび寄生虫学的技術		1
遺伝学的統御および育種		
病理診断技術	1	
栄養技術	2	
無菌動物技術		1
遺伝子導入動物技術	1	1

ミニッツ (中文)

中日政府技术合作“中国实验动物人才培养中心”项目
技术合作会谈备忘录

由日本国际协力事业团组织的以前岛一淑为团长的日本“中国实验动物人才培养中心”项目(以下简称项目)调查团,为了对项目技术合作的进展情况加以确认和制订今后的技术合作实施计划,于1995年7月24日~8月3日对中华人民共和国进行了正式访问。

在中华人民共和国期间,日本调查团与以项目总负责人,中国医学科学院院长巴德年为团长的“中国实验动物人才培养中心”中日政府技术合作项目协议团,就有效执行项目交换了意见,达成了一系列协议。

协商结果,双方确认了附属文件中所列各事项。

1995年7月29日

北京

中方本项目协议团团长
中国医学科学院院长
巴德年

巴德年

日方本项目协议团团长
日本国际协力事业团
前岛一淑

前岛一淑

附属文件

1、项目实施体制

(1)、项目实施情况

中方对项目实施情况做了说明，基本上是按原定计划执行的。

(2)、中国实验动物人才培养中心的组织机构

日方就确立中国实验动物人才培养中心(以下简称中心)这一组织机构为执行教育培训课程的实施机构并强烈要求与中国医学科学院实验动物研究所(以下简称研究所)明确区分开。

对于上述要求，中方表示，中心是长期的持续存在的组织机构。国家科学技术委员会对中心进行技术管理，卫生部对中心负责行政管理。并且，中心是直属于卫生部中国医学科学院的一个单位，与中国医学科学院实验动物研究所、中国协和医科大学实验动物学部属于并列的组织机构。

中方答复，教育培训和科学研究之间相互关系密切，这是最好的形式。当项目完成之后，据国家科学技术委员会和卫生部的指示，将继续开办教育培训课程。

再者，由卫生部制订的，1996年开始的第9个5年计划，中心将被做为重要单位并预定在研究所内建立卫生部实验动物重点研究室。

(3)、建立提供仪器、设备的保管体制

中方为了有效使用日方提供的仪器、设备，已经完成制订仪器、设备管理台帐；同时对各种仪器、设备均分别确定了安放场所和管理负责人，并且提出了报告。

(4)、对等人员安排情况

中方提出了“实验动物技术及管理”、“微生物学及寄生虫学技术”、“遗传监控及育种技术”、“病理诊断技术”、“营养技术”、“无菌动物技术”、“转基因动物技术”各项教育培训课程的对等人员安排见附件1。

日方同意中方将仅有名义上的对等人员加以调整，并希望补充适当人员。中方同意并重新推荐了9名预备人员。

2、项目进展情况及实施计划

(1)、教育培训课程的实施

1994年度，教育培训课程完成了“实验动物技术和管理(第三

期、第四期)”、“微生物学及寄生虫学技术(第二期)”、“遗传监控及育种技术(第一期)”。上述课程,是按1993年11月的巡回指导调查团的协议备忘录所确定的计划完成的,确认已获得预期的成果。

1995年度,已经实施了“微生物学及寄生虫学技术(第三期)”的教育培训。今后预定实施的有“遗传学监控及育种技术(第二期)”、“病理诊断技术(第一期)”、“无菌动物技术(第一期)”的教育培训课程。

1996年度,日方提出是否可以将教育培训课程每年进行5次的提议,中方表示同意见附表2。

(2)、派遣长期专家

按照暂定实施计划方案派遣专家组长、业务协调员和实验动物专家。

(3)、派遣短期专家

1994年,为了配合教育培训课程的实施派遣了短期专家。在向对等人员进行技术指导的同时,还派遣了担任“营养技术”、“无菌动物技术”的短期专家,分别制订了各项教育培训课程的课程计划和教科书。

1995年度,已经为配合“微生物学及寄生虫学技术”的教育培训课程的实施派遣了短期专家。同时为制订“转基因动物技术”的教育培训的课程计划、教科书派遣了短期专家。

并且,还确定今后为配合实施教育培训课程以及实施之前,均要派遣短期专家。

(4)、接收研修员

1994年度,日方接收了“实验动物技术及管理(2名)”、“遗传监控及育种技术(1名)”、“病理诊断技术(1名)”、“营养技术(1名)”、“无菌动物技术(1名)”、“转基因动物技术(1名)”共7名对等人员赴日研修。

1995年度,“病理诊断技术(1名)”、“营养技术(2名)”、“转基因动物技术(1名)”共4名对等人员赴日研修。

关于1996年以后,赴日研修生的派遣中方已向日方提交了预选名单见附表3。

(5)、提供仪器设备

关于1994年的供给仪器设备,在“遗传监控和育种技术”的教

育培训中已有效利用的同时，在今后预定实施的“病理诊断技术”、的教育培训课程中仍将使用。

关于1995年度供给仪器设备，应在项目的“无菌动物技术”、“营养技术”、“转基因动物技术”的教育培训课程实施之前到达，并已做了相应安排。

1996年度，中方应将所需仪器设备清单按需要优先顺序提出，日方将根据此清单在事先讨论的基础上，按中方的正式申请并在预算等考虑可能的范围内予以提供。

(6)、建筑设施的配备

由中方投资，中心仪器室的改建工程、会议室的装修工程等均已完成。今年9月份将完成中心三层动物饲养设施(品系维持)的配备，并且对繁殖场中准备安装颗粒饲料机的建筑设施进行改建。

同时，日方投资的中心二层动物饲养实验室的装配已经完成。中心地下一层，安全动物饲养室有关设施的装备正在进行中。

注：本文中使用的年度，是日本方财政预算年度(4月~3月)

附表1:

对等人员配备情况

培 训 课 程	需要对等人员人数	现有对等人员人数	调整后对等人员人数	提名补充人数
实验动物技术及 管理	8	8	6	2
微生物学及寄生 虫学技术	6	6	5	1
遗传监控及育种 技术	4	4	3	1
病理诊断技术	6	6	5	1
营养技术	4	4	4	
无菌动物技术	4	4	3	1
转基因动物技术	6	6	4	3
(合计)	38	38	30	9

附表2:

1995年以后的培训教学计划

培 训 课 程	1995年度	1996年度	1997年度
实验动物技术与管理			
微生物学与寄生虫技术	1		
遗传监控及育种技术	1		
病理诊断技术	1	1	
营养技术		2	
无菌动物技术	1	1	
转基因动物技术		1	1

附表3:

接收访日研修员计划

专 业	1995年度	1996年度
实验动物技术与管理		1
微生物学与寄生虫技术		1
遗传监控及育种技术		
病理诊断技术	1	
营养技术	2	
无菌动物技术		1
转基因动物技术	1	1

付属資料2. カウンターパートの配置状況

分野	必要カウンターパート数	現状カウンターパート数 (94年11月提出)	調整後のカウンターパート数 ※ (95年7月提出)	カウンターパート候補者の推薦数 (95年7月提出)
実験動物技術および管理	8	8	6	2
微生物学のおよび寄生虫学的技術	6	6	5	1
遺伝学的統御および育種	4	4	3	1
病理診断技術	6	6	5	1
栄養技術	4	4	4	
無菌動物技術	4	4	3	1
遺伝子導入動物技術	6	6	4	3
合 計	38	38	30	9

※名目的カウンターパートを整理した残数

付属資料 3. 専門家派遣実績

(1) 長期専門家

業務担当	派遣期間	専門家氏名	所 属 先
チーフアドバイザー	1992. 9.22～1994. 9.21	山之内 孝尚	元大阪大学感染動物実験施設教授
チーフアドバイザー	1994. 9. 6～1996. 9. 5	上田 雄幹	元岐阜大学農学部獣医学科教授
業務調整	1992. 9.22～1995. 9.21	高橋公一郎	日本国際協力センター
実験動物	1992.10.22～1995.10. 9	久原 孝俊	帝京大学医学部講師

(2) 短期専門家

① 「実験動物技術および管理」課程

業務担当	派遣期間	専門家氏名	所 属 先
カリキュラム・テキスト作成	1992.12. 7～1992.12.25	浦野 徹	熊本大学医学部附属動物実験施設助教授
教育訓練課程 (第1回)	1993. 6.18～1993. 8.19	浦野 徹	熊本大学医学部附属動物実験施設助教授
	1993. 6.25～1993. 7.17	八神 健一	筑波大学基礎医学系助教授
	1993. 7. 9～1993. 8. 2	毛利 資郎	佐賀医科大学医学部助教授
	1993. 7.23～1993. 8. 9	瀧上 勝野	(株)パナファーム・ラボラトリーズ 安全性研究所副所長
教育訓練課程 (第2回)	1993.10.18～1993.10.29	浦野 徹	熊本大学医学部附属動物実験施設助教授
	1993.10.26～1993.11.10	津久見 清	熊本大学医学部附属動物実験施設助手
	1993.11. 2～1993.11.22	和田 俊雄	九州大学医学部純系動物飼育場講師
教育訓練課程 (第3回)	1994. 5. 2～1994. 6.11	木内 吉寛	横浜市立大学医学部動物実験センター助教授
教育訓練課程 (第4回)	1994. 8.16～1994. 9.24	松田 幸久	秋田大学医学部附属動物実験施設助教授

② 「微生物学のおよび寄生虫学の技術」課程

業務担当	派遣期間	専門家氏名	所 属 先
カリキュラム・テキスト作成	1992.12. 7～1992.12.25	前島 一淑	慶應義塾大学医学部実験動物センター教授
	1992.12. 7～1992.12.25	石原 智明	酪農学園大学酪農学部獣医学科教授
教育訓練課程 (第1回)	1994. 2.22～1994. 3.30	石原 智明	酪農学園大学酪農学部獣医学科教授
	1994. 2.24～1994. 3.18	岩井 滋	酪農学園大学酪農学部獣医学科教授
教育訓練課程 (第2回)	1994. 7. 5～1994. 8.13	石原 智明	酪農学園大学酪農学部獣医学科教授
	1994. 7.29～1994. 8. 9	岩井 滋	酪農学園大学酪農学部獣医学科教授
	1994. 7. 7～1994. 7.18	辻 正義	酪農学園大学酪農学部獣医学科助教授
	1994. 7.24～1994. 8. 3	神谷 正男	北海道大学獣医学部教授
教育訓練課程 (第3回)	1995. 5. 2～1995. 6. 9	平野 紀夫	岩手大学農学部助教授
	1995. 5.16～1995. 5.26	板垣 匡	岩手大学農学部助手

③「遺伝学的統御および育種技術」課程

業務担当	派遣期間	専門家氏名	所 属 先
カリキュラム・テキスト 作成	1993. 9. 7~1993. 9.19	江崎孝三郎	大阪府立大学農学部教授
教育訓練課程 (第1回)	1995. 2.28~1995. 4. 5	山田 淳三	(株)ケー・エー・シー顧問
	1995. 3. 9~1995. 3.18	村口 武彦	京都大学医学部教務職員
	1995. 3.12~1995. 3.25	近藤 靖	田辺製薬(株)研究員

④「病理診断技術」課程

業務担当	派遣期間	専門家氏名	所 属 先
カリキュラム・テキスト 作成	1993. 9. 7~1993. 9.15	藤原 公策	日本大学農獣医学部教授
	1993. 9.11~1993. 9.19	後藤 直彰	東京大学農学部教授

⑤「栄養技術」課程

業務担当	派遣期間	専門家氏名	所 属 先
カリキュラム・テキスト 作成	1994.10.31~1994.11.12	木村 透	日本農産工業(株)係長

⑥「無菌動物技術」課程

業務担当	派遣期間	専門家氏名	所 属 先
カリキュラム・テキスト 作成	1994.10.31~1994.11.12	木内 吉寛	横浜市立大学医学部助教授
	1994.10.31~1994.11.12	長澤 弘	明治大学農学部教授

⑦「遺伝子導入動物技術」課程

業務担当	派遣期間	専門家氏名	所 属 先
カリキュラム・テキスト 作成	1995. 7. 7~1995. 7.14	笠井 憲雪	東北大学医学部教授
	1995. 7. 7~1995. 7.14	下田 耕治	慶應義塾大学医学部助手

付属資料4. カウンターパート研修実績

教 育 訓 練 課 程	研 修 期 間	研 修 員 氏 名
実 験 動 物 技 術 お よ び 管 理	1993. 7.27~1994. 7.26	王 瓏
	1993. 8.26~1994. 8.23	宋 懷 燕
	1994. 8. 1~1995. 4.30	欧 陽 卓 志
	1995. 3.26~1995.12.25	賢 鏡 勝
微 生 物 学 的 お よ び 寄 生 虫 学 的 技 術	1992. 3.25~1993. 3.23	魏 強
	1993. 8.10~1994. 8. 9	李 紅
遺 伝 学 的 統 御 お よ び 育 種 技 術	1993. 7.27~1994. 7.26	汪 歌
	1994. 8. 8~1995. 4.30	孟 雁
病 理 診 断 技 術	1992. 3.25~1993. 3.23	秦 川
	1994. 9. 5~1995. 5.28	張 永 蓉
栄 養 技 術	1994. 9. 3~1995. 5.31	蘇 衛
無 菌 動 物 技 術	1994. 9. 5~1995. 5.28	徐 新 明
遺 伝 子 導 入 動 物 技 術	1995. 3. 7~1995.12. 6	顧 熟 琴

機材供与実績表

No.1
調査日：1995年6月 日

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 (特記事項)	考
供与92001	パソコン・プリンター	コンパック、486/33M/H/P LJIII	1	中側弁公室	王紅兵	現地調達	
供与92002	中国語ワープロ	四通、MS-2406A	1	中側弁公室	高軍	現地調達	
供与92003	コピー機	キヤノン、NP3050	1	専門家室	高橋	現地調達	
供与92004	コピー機	キヤノン、NP3050	1	中側弁公室	高軍	現地調達	
供与92005	ファクシミリ	キヤノン、750	1	専門家室	高橋	現地調達	
供与92006	車両	トヨタ、ハイエースクラスバン	1	センター内車庫	夏光華		
供与92007	同上スベアパーツ	トヨタ、ハイエースクラスバン	1式	207	華克非		
供与92008	車両	ニッサン、マイクロバス シヴィリアン	1	センター内車庫	王会臣		
供与92009	同上スベアパーツ	ニッサン、マイクロバス シヴィリアン	1式	207	華克非		
供与92010	マウスケージ	岡崎、M-55	1	207	徐鳳		
供与92011	ラットケージ	岡崎、M-85	1	207	徐鳳		
供与92012	モルモットケージ	岡崎、RS-5	1	210	徐鳳		
供与92013	ウサギケージ	岡崎、RS-1	1	210	徐鳳		
供与92014	イヌケージユニット	岡崎、DW-2-2	1	繁殖場	王瓏		
供与92015	サルケージユニット	岡崎、MOW-4	1	繁殖場	王瓏		
供与92016	マウスケージ用ラック	岡崎、ML-1S	1	206	徐鳳		
供与92017	ラットケージ用ラック	岡崎、ML-2S	1	206	徐鳳		
供与92018	モルモットケージ用ラック	岡崎、CP-1-24-GP	1	210	徐鳳		
供与92019	ウサギケージ用ラック	岡崎、CP-1-15-RB	1	210	徐鳳		
供与92020	アイソラック	CSK、CT-2	1	206	徐鳳		

No	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 (特記事項)	考
供与92021	アイソフドラック	CSK、CT-10	1	210	徐鳳		
供与92022	小型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-A	1	206	徐鳳	VI講用、開講時使用	
供与92023	小型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-A	1	206	徐鳳	"	
供与92024	小型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-A	1	207	徐鳳	"	
供与92025	小型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-A	1	207	徐鳳	"	
供与92026	小型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-A	1	207	徐鳳	"	
供与92027	中型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-B	1	206	華克非	"	
供与92028	中型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-B	1	206	華克非	"	
供与92029	中型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-B	1	207	華克非	"	
供与92030	中型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-B	1	207	華克非	"	
供与92031	中型ビニールアイソレーター	CSK、CM-2-B	1	207	華克非	"	
供与92032	減菌缶	CSK、CM-23	1	207	華克非	"	
供与92033	飼料減菌枠	CSK、CM-24	1	207	華克非	"	
供与92034	減菌缶架台	CSK、CM-25	1	207	華克非	"	
供与92035	減菌缶架台	CSK、CM-25 卓上型	1	207	華克非	"	
供与92036	防毒マスク	CSK、CM-27	1	207	華克非	"	
供与92037	スプレーガン	CSK、CM-28	1	207	華克非	"	
供与92038	コンプレッサ	CSK、CM-29	1	207	華克非	"	
供与92039	フィルターメディア	CSK、CM-30	1	207	華克非	"	
供与92040	プロア	CSK、CM-31	1	207	華克非	"	

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 (特記事項)	考
供与92041	アイソレーター用手袋	CSK、CM-32	1	207	華克非		
供与92042	マウスケージ	CSK、CM-33	1	207	華克非		
供与92043	ラットケージ	CSK、CM-34	1	207	華克非		
供与92044	連結スリーブ	CSK、CM-39	1	207	華克非		
供与92045	輸送缶	CSK、CM-40	1	207	華克非		
供与92046	ビデオデッキ	東芝、V-880ME	1	138	秦川		
供与92047	ビデオデッキ	東芝、V-880ME	1	中側弁公室	高軍		
供与92048	ビデオデッキ	東芝、V-880ME	1	中側弁公室	高軍		
供与92049	ビデオデッキ	東芝、V-880ME	1	207	高軍	講堂講義用	
供与92050	ビデオモニター	東芝2506XH	1	138	秦川		
供与92051	ビデオモニター	東芝2506XH	1	中側弁公室	高軍		
供与92052	ビデオモニター	東芝2506XH	1	中側弁公室	高軍		
供与92053	ビデオモニター	東芝3409XH	1	207	高軍	講堂講義用	
供与92054	製水機	星崎、IM-20K	1	207	華克非		
供与92055	純水製造装置	ヤマト、WA-73	1	213	徐鳳		
供与92056	超純水製造装置	ミリポア、MIRI XQ	1	211	華克非		
供与92057	CO ₂ インキュベーター	サンヨーメディカ、MCO-345	1	117	徐鳳		
供与92058	CO ₂ インキュベーター	サンヨーメディカ、MCO-345	1	安全動物室	上田	稼働前	
供与92059	オートピペット	ギルソン、P-20	10	116	徐鳳		
供与92060	オートピペット	ギルソン、P-100	10	116	徐鳳		

調査日：1995年6月 日
No. 4

No.	機 材 名 称	メ ー カ ー ・ 規 格 ・ 能 力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 考 (特記事項)
供与92061	オートピペット	ギルソン、P-200	10	116	徐鳳	
供与92062	オートピペット	ギルソン、P-1000	10	116	徐鳳	

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備考 (特記事項)
供与93001	冷蔵庫	ICM、R-37D2MS	1	115	徐鳳	
供与93002	冷蔵庫	ICM、R-37D2MS	1	116	徐鳳	
供与93003	冷蔵庫	ICM、R-37D2MS	1	117	徐鳳	
供与93004	冷凍庫	ICM、MDF-U596D-Sサンヨー	1	140	肖光林	
供与93005	冷凍庫	ICM、MDF-U596D-Sサンヨー	1	117	徐鳳	
供与93006	超低温槽	ICM、MDF-392AT-S	1	208	徐鳳	
供与93007	乾熱滅菌器	室町機械、KPH-200S TABAI ESPEC	1	215	蔣観成	
供与93008	高圧蒸気滅菌器	室町機械、KPH-SS-325S TOMY	1	215	蔣観成	
供与93009	高圧蒸気滅菌器	室町機械、KPH-SS-325S TOMY	1	安全動物室	上田	稼働前
供与93010	高圧蒸気滅菌器	室町機械、KPH-SS-325S TOMY	1	213	徐鳳	
供与93011	フロン器	いすゞ製作所、SFR-116S	1	117	徐鳳	
供与93012	低速遠心器	家田ラボ、RL-101-S	1	116	徐鳳	
供与93013	低速遠心器	家田ラボ、RL-101-S	1	224	魏強	
供与93014	低速遠心器ローター	家田ラボ、TS-7S	2	207	華克非	スペア
供与93015	高速冷却遠心器	家田ラボ、RS-205-S	1	224	魏強	
供与93016	高速冷却遠心器ローター	家田ラボ、TA-16-S	1	207	華克非	スペア
供与93017	高速冷却遠心器ローター	家田ラボ、TA-3-S	1	207	華克非	スペア
供与93018	高速冷却遠心器ローター	家田ラボ、NO-20N-S	1	207	華克非	スペア
供与93019	微量高速遠心器	家田ラボ、MRX-150-S	1	PR	蔡川	
供与93020	微量高速遠心器ローター	家田ラボ、TMA-4-S	1	PR	蔡川	

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備考 (特記事項)
供与93021	超高速遠心器	家田ラボ、L7-80-S	1	140	肖光林	
供与93022	超高速遠心器ローター	家田ラボ、80TI-S	1	140	肖光林	
供与93023	超高速遠心器ローター	家田ラボ、28-SF	1	140	肖光林	
供与93024	ウォーターバス	ICM、BT-15-S	1	115	徐鳳	
供与93025	ウォーターバス	ICM、BT-15-S	1	116	徐鳳	
供与93026	ウォーターバス	ICM、BT-15-S	1	117	徐鳳	
供与93027	液体空素保存容器	家田、MVEXC47/11-10-S	1	224	涂新明	
供与93028	液体空素保存容器	家田、MVEXC47/11-10-S	1	224	涂新明	
供与93029	分光光度計	家田、PLUS-Sファルマシア	1	209	肖光林	
供与93030	電気泳動装置	室町機械、マルチポア-Ⅱシステム-S	1	320	王克維	
供与93031	電気泳動装置	室町機械、マルチポア-Ⅱシステム-S	1	207	華克非	
供与93032	PHメーター	ICM、PHM-2000-S	1	141	秦川	
供与93033	PHメーター	ICM、PHM-2000-S	1	209	肖光林	
供与93034	安全キャビネット	CSK、CT-33	1	安全動物室	上田	稼働前
供与93035	安全キャビネット	CSK、CT-33	1	224	涂新明	
供与93036	洗濯機	東芝、VH-2500-E	1	213	徐鳳	
供与93037	振盪培養器	ICM、IK41W-S	1	117	徐鳳	
供与93038	濾過器	室町機械、SVG-V-B25-KJ-S	1	221	蔣親成	
供与93039	マイクロチューブポンプ	室町機械、MP-3BIS	1	207	華克非	
供与93040	消毒用噴霧器	ICM、MS-4-S	1	207	華克非	

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 (特記事項)	考
供与93041	消毒用噴霧器	ICM、MS-4-S	1	207	華克非		
供与93042	消毒用噴霧器	ICM、MS-4-S	1	207	華克非		
供与93043	自記温湿度計	セコック、ST-100S	1	207	華克非		
供与93044	動物用電子天秤	島津、EB-3200D-AW、プリンター付	1	207	華克非		
供与93045	マウス固定器	CSK、CN-2	1	207	華克非		
供与93046	マウス固定器	CSK、CN-3	1	207	華克非		
供与93047	ラット固定器	CSK、CN-4	1	207	華克非		
供与93048	ラット固定器	CSK、CN-5	1	207	華克非		
供与93049	ウサギ固定器	夏目、神田式	1	207	華克非		
供与93050	ウサギ固定器	夏目、北島式	1	207	華克非		
供与93051	動物用エアバランチ	CSK、B-S	10	207	華克非		
供与93052	電動式入墨器	CSK、AT-1	8	207	華克非		
供与93053	倒立顕微鏡	ニコン、TMS-1A	1	207	華克非		
供与93054	倒立顕微鏡	ニコン、TMS-1A	1	224	魏強		
供与93055	倒立顕微鏡	ニコン、TMS-1A	1	207	華克非		
供与93056	実体顕微鏡・照明装置	ニコン、SMZ-U-3	1	207	華克非		
供与93057	実体顕微鏡・照明装置	ニコン、SMZ-U-3	1	207	華克非		
供与93058	実体顕微鏡・照明装置	ニコン、SMZ-U-3	1	207	華克非		
供与93059	実体顕微鏡・照明装置	ニコン、SMZ-U-3	1	221	蔭観成		
供与93060	顕微鏡用電子天秤	島津、EB-330H-AOF	1	207	華克非		

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備考 (特記事項)
供与93061	電子上皿天秤	島津、EB-340 DW	1	139	秦川	
供与93062	写真撮影装置	SFC、130-DR2-XY	1	130	秦川	
供与93063	連続自動分注器	FINN、500ml、4028-590	1	207	華克非	
供与93064	連続自動分注器	FINN、500ml、4028-590	1	207	華克非	
供与93065	8チャンネルピペット	家田ラボ、L-4142417S	3	224	魏強	
供与93066	ピペット洗浄器	ICM、AU-100CR-S	1	207	華克非	
供与93067	ピペット洗浄器	ICM、AU-100CR-S	1	207	華克非	
供与93068	超音波洗浄器	家田ラボ、8200 J4-S	1	207	華克非	
供与93069	超音波洗浄器	家田ラボ、8200 J4-S	1	207	華克非	
供与93070	マイクロタイターリーダー	家田ラボ、3550-S	1	223	肖光林	
供与93071	血球計算盤	カヤガキ	15	207	華克非	
供与93072	マグネティックスターラー	アドヴァンテック、SR-500	2	207	華克非	
供与93073	試験官ミキサー	アドヴァンテック、TME-21	2	207	華克非	
供与93074	プレートミキサー	ICM、P-S	3	207	華克非	
供与93075	デジタル式騒音計	ICM、NA-24	1	425	劉德惠	V 講開講前
供与93076	デジタル光電池照度計	東京光電、ANA-999	1	425	劉德惠	V 講開講前
供与93077	ピンホールサルプラー	ICM、YS-S	1	207	華克非	
供与93078	ガス検知管器	北川式	1	425	劉德惠	V 講開講前
供与93079	アスマン通風乾濕球湿度計	いすゞ、3-1250-01	1	425	劉德惠	V 講開講前
供与93080	ハイスピードマイクロドリル	室町機械、18000-17	1	224	魏強	

No.	機 材 名 称	メ ー カ ー ・ 規 格 ・ 能 力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 考 (特記事項)
供与93081	検卵器	東洋、ハンディタイプ、ランプ付	1	224	魏強	
供与93082	落射式蛍光顕微鏡	ニコン、X2F-EFD	1	139	肖光林	
供与93083	落射式蛍光顕微鏡	ニコン、X2F-EFD	1	207	華克非	安全動物室用
供与93084	顕微鏡写真撮影装置	ニコン、UPX-DX-35	1	139	肖光林	
供与93085	電子レンジ	松下、NH-5652	1	専門家室	高橋	現地調達
供与93086	電子レンジ	松下、NH-5652	1	207	華克非	現地調達
供与93087	電子レンジ	松下、NH-5652	1	207	華克非	現地調達
供与93088	電子レンジ	松下、NH-5652	1	中瀬弁公室	劉德惠	現地調達
供与93089	顕微鏡写真撮影装置	ニコン、UPX-DX-35	1	207	華克非	安全動物室用

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 (特記事項)	考
供与94001	発射式蛍光顕微鏡	ニコン、X2F-EFD	1	207	華克非		
供与94002	顕微鏡写真撮影装置	ニコン、UFX-DX-35	1	207	華克非		
供与94003	顕微鏡写真撮影装置	ニコン、UFX-DX-35	1	207	華克非		
供与94004	顕微鏡写真撮影装置	オリンパス、PM10AK3-35AC	1	138	桑川		
供与94005	炭酸ガス培養器	池本理化、10-0211	1	224	魏強		
供与94006	気相ハイブリダイゼーション	タイテック、HB	1	207	華克非		
供与94007	蛍光イムノリダー	ラボシステム、L-5210047/STAR JL-10	1	209	肖光林		
供与94008	電気泳動装置	バイオラッド、プロテインII-xi-1D	1	320	王克維		
供与94009	電気泳動装置	バイオラッド、プロテインII-xi-1D	1	320	王克維		
供与94010	電気泳動装置	バイオラッド、プロテインII-xi-1D	1	320	王克維		
供与94011	電気泳動装置	バイオラッド、プロテインII-xi-1D	1	320	王克維		
供与94012	電気泳動装置	バイオラッド、プロテインII-xi-1D	1	320	王克維		
供与94013	等電点電気泳動装置	バイオラッド、1290	1	320	王克維		
供与94014	二次元電気泳動装置	バイオラッド、プロテインII-xi-2D	1	320	王克維		
供与94015	電気泳動装置	ヘレナ	1	207	華克非		
供与94016	超小型電気泳動装置	コスモバイオ、ミュレピッド2	1	323	孫涛		
供与94017	超小型電気泳動装置	コスモバイオ、ミュレピッド2	1	207	華克非		
供与94018	超小型電気泳動装置	コスモバイオ、ミュレピッド2	1	207	華克非		
供与94019	超小型電気泳動装置	コスモバイオ、ミュレピッド2	1	207	華克非		
供与94020	ラビダスミニスラブ-2D	アトー	1	323	孫涛		

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 (特記事項)	考
供与94021	ラピダスミニスラブ-2D	アトー	1	207	華克非		
供与94022	ラピダスミニスラブ-2D	アトー	1	207	華克非		
供与94023	ラピダスミニスラブ-2D	アトー	1	207	華克非		
供与94024	トランスイルミネーター	ルーマット、TFX35M	1	319	王克維		
供与94025	卓上低速遠心機	トミー、LC120	1	207	華克非		
供与94026	フラン機	いすず、SFR-116S	1	207	華克非		
供与94027	フラン機	いすず、SFR-116S	1	207	華克非		
供与94028	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94029	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94030	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94031	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94032	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94033	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94034	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94035	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94036	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94037	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94038	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94039	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94040	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 (特記事項)	考
供与94041	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94042	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94043	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94044	実体顕微鏡	ニコン、SMZ-1B-3	1	207	華克非		
供与94045	下顎骨測定板	CSK、江崎式	15	207	華克非		
供与94046	位相差顕微鏡	ニコン、X2F-PH 21	1	138	秦川		
供与94047	位相差顕微鏡	ニコン、X2F-PH 21	1	221	蔣観成		
供与94048	標本ブロック加湿器	CSK、SMB-1S	1	135	秦川		
供与94049	標本ブロック加湿器	CSK、SMB-1S	1	135	秦川		
供与94050	標本ブロック加湿器	CSK、SMB-1S	1	319	王克維		
供与94051	標本ブロック加湿器	CSK、SMB-1S	1	319	王克維		
供与94052	R.F.L.P検査装置	バイオラッド	1	209	肖広林	据付・操作指導必要	
①	コンピュータ本体	アップル、マッキントッシュ クワドラ840AV	1				
②	コンピュータディスプレイ	アップル、マッキントッシュ	1				
③	レーザープリンター	アップル、	1				
④	DNA泳動装置	バイオラッド、166-1012B1SV	1				
⑤	デンシトメーター	バイオラッド、GS670	1				
⑥	ゲル乾燥機	バイオラッド、583	1				
⑦	バイオ真空プロッター	バイオラッド、785	1				
⑧	UV箱	バイオラッド、GSCENaL ジーンリンクカー	1				

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 (特記事項)	考
供与94053	PCR装置	パーキンエレマ、480	1	217	魏強		
供与94054	ボラロイド写真撮影装置	家田ラボ、MP-4	1	320	王克維		
供与94055	ディスプレイション顕微鏡	ニコン、X2F-MTH5-21	1	138	秦川		
供与94056	システム生物顕微鏡	オリンパス、BX50-32E01	1	138	秦川		
供与94057	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	138	秦川		
供与94058	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	138	秦川		
供与94059	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94060	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94061	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94062	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94063	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94064	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94065	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94066	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94067	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94068	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94069	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94070	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94071	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		
供与94072	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非		

No.	機材名称	メーカー・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備考 (特記事項)
供与94073	光学顕微鏡	ニコン、SEB-3	1	207	華克非	
供与94074	自動固定包埋装置	CSK、VRX-23BS	1	133	秦川	
供与94075	自動固定包埋装置	CSK、VRX-23BS	1	133	秦川	
供与94076	自動染色装置	CSK、DRS-601AS	1	133	秦川	
供与94077	パラフィン溶解装置	CSK、MP-401-1S	1	133	秦川	
供与94078	パラフィン伸展装置	CSK、PS-52CS	1	135	秦川	
供与94079	ミクトローム	CSK、IVS-410S	1	135	秦川	
供与94080	スライド作製機	リコー、プレセスVC365	1	211	高軍	
供与94081	切片用恒温水槽	CSK、PS-MS	1	135	秦川	
供与94082	切片用恒温水槽	CSK、PS-MS	1	135	秦川	
供与94083	粒子測定装置	リオン、KC-01C	1	425	劉徳恵	
供与94084	固形銅料作製装置	上田鉄鋼、PM-200 (10HP)	1	繁殖場	王瓊	掘付け未了(建物改造中)
供与94085	製氷機	ホシザキ、FM-120D	1	213	徐鳳	
供与94086	カロリメーター	島津、CA-4P	1	426	劉徳恵	掘付け中
供与94087	真空凍結乾燥装置	東京理化、FD-1	1	140	肖広林	
供与94088	高速液体クロマトグラフィ	ミリポア、ウォーターズLCモジュール	1	424	劉徳恵	掘付け未了
供与94089	液体クロマトグラフィ	パイオラッド、エコノシステムB	1	426	劉徳恵	
供与94090	簡易式印刷装置	リコー、VT2500	1	211	高軍	
供与94091	簡易式製氷機	ホリゾン、BQ-9	1	211	高軍	
供与94092	高圧蒸気発生ボイラー	上海三浦、NR300E	1	繁殖場	王瓊	現地調達

No.15
 調査日：1995年6月 日

No.	機 材 名 称	メーカ-・規格・能力	供与量	設置・保管場所	管理者名	備 考 (特記事項)
供与94093	高压蒸気発生ボイラー	上海三浦、NR100E	1	センター西外	華克非	現地調査
供与94094	中国語パソコン/プリンター	コンパック、P486/50/8M/340M	1	211	高軍	現地調査
供与94095	ミクトローム	CSK、IVS-410S	1	135	秦川	

付属資料 6. 1995年度以降の教育訓練課程の計画

教育訓練課程	1995年度	1996年度	1997年度
実験動物技術および管理			
微生物学のおよび寄生虫学的技術	1		
遺伝学的統御および育種技術	1		
病理診断技術	1	1	
栄養技術		2	
無菌動物技術	1	1	
遺伝子導入動物技術		1	1

付属資料7. 訪日研修員の受入れ

分 野	1995年度	1996年度
実験動物技術及び管理		1
微生物学的及び寄生虫学的技術		1
遺伝学的統御及び育種		
病理診断技術	1	
栄養技術	2	
無菌動物技術		1
遺伝子導入動物技術	1	1

JICA



LIE